

## ②東京家政大学 リハビリテーション学科理学療法学専攻 カリキュラム概念図

学部名	健康科学部	学科名	リハビリテーション学科	専攻	理学療法学専攻
【育成する人材】			【育成する理学療法士像】		
①生命の尊重と人格の尊厳及び豊かな人間性に基づき、社会のニーズに対応できる質の高いリハビリテーションサービスの実践力を有する			リハビリテーション学科は、その人らしく生活することができるよう生活の再獲得を支援するために、生命の尊重と人格の尊厳及び豊かな人間性に基づき、社会のニーズに対応できる質の高いリハビリテーションサービスの実践力を有する専門職者を育成するものである。さらに、保健医療福祉の発展と向上に貢献できる人材を育成することを目指している。理学療法士の人材像は、疾病や傷害に起因する機能・形態障害のある、あらゆる年代の人々がその人らしく生活することができるよう身体機能・能力の改善、基本動作や日常生活活動の改善を支援できる理学療法実践者である。		
②チームの一員として協働する能力を有する					
③専門職業教育に求められる科学的根拠に裏づけされた専門的知識・技術・態度及び主体的学修能力を有する					



	1年次 理学療法士としての意識を養う		2年次 疾病と理学療法の基礎知識を学ぶ		3年次 理学療法の実践を学び、経験する		4年次 臨床を経験するとともに研究法を学ぶ		ディプロマ ポリシー	就職先	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎 教養 科目	コア科目		キャリアデザイン						【知識・技能】 ・人々の健康の維持・増進、疾病予防、健康障害からの回復に向け、専門知識と技術に裏付けられたリハビリテーションを科学的根拠に基づき実施できる。 ・常に知識・技術・態度を向上させようと研鑽する姿勢を身につけている。 ・作業療法学・理学療法学を意識的に問い続ける姿勢を有し、研究に関する基礎的能力を身につけ、推進できる。	【思考力・判断力・表現力】 ・人格や個性、価値観を尊重し、柔軟な思考で問題の本質を捉え、論理的に課題を解決できる。 ・生の誕生から老い(死)までの多様なライフステージに応じた生活や行動を生体力学的及び心理生理学的側面から多角的に捉えて説明できる。 ・作業療法・理学療法の実践において如何なる場合でも、作業療法士・理学療法士としての役割を倫理的に判断し、探求心をもって取り組むことができる。	【主体性・多様性・協働性】 ・保健・医療・福祉に興味や関心を持ち、人に関わる現象を探索するために自ら行動を起こすことができる。 ・社会及び地域のニーズを把握する知識と技術を有し、柔軟な協調性を身につけ、リハビリテーションを実践できる。 ・地域における多様な考えやチームの中での自身の役割を理解し、多職種間連携がとれ、協働できる。
	人間と社会・文化		生命倫理、人間関係論、コミュニケーション論、教育学概論、ジェンダー論 等								
	人間と自然		生命科学、神経科学、環境科学 等								
	人間と情報		データサイエンス基礎、基礎統計・情報処理、医療情報システム論、ヒューマンロボティクス、日本語表現Ⅰ・Ⅱ								
	人間と言語		英語A、英語B、医療英会話、医学英語、中国語								
専門 基礎 科目	人体の構造と機能及び心身の発達		人体の構造Ⅰ	人体の構造Ⅱ	人体の構造演習						
			生理学Ⅰ	生理学Ⅱ	生理学演習						
				運動学Ⅰ	運動学Ⅱ						
				人間発達学	運動学演習						
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		公衆衛生学	病理学	小児科学	救急救命学					
				薬理学	臨床心理学						
				神経内科学	リハビリテーション栄養学						
				整形外科学	予防リハビリテーション学						
				精神医学							
				内科学							
保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論	社会福祉学概論	チーム医療と多職種連携論	ウィメンズヘルスリハビリテーション	関係法規			【一般病院】 【総合病院】 【回復期リハビリテーション病院】 【介護老人保健施設】 【福祉施設】 【行政機関】 【一般企業】 【教育機関】 【スポーツ関連施設】 など		
		国際支援リハビリテーション		リハビリテーション医学							
		作業療法学概論									
基礎理学療法学		理学療法学概論				研究法		卒業研究			
理学療法管理学		基礎理学療法学演習						理学療法管理学			
理学療法評価学				リスク管理学	地域保健マネジメント学						
				理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価学Ⅱ						
				理学療法評価学演習Ⅰ	理学療法評価学演習Ⅱ						
理学療法治療学				運動療法学総論	運動療法学各論	スポーツ・運動器系理学療法学Ⅰ	内科系理学療法学演習	理学療法総合演習Ⅱ			
				物理療法学	日常生活活動学	スポーツ・運動器系理学療法学Ⅱ	老年期理学療法学	理学療法総合演習Ⅲ			
					日常生活活動学演習	スポーツ・運動器系理学療法学演習	高次脳機能治療学				
					発達と理学療法学	神経系理学療法学Ⅰ	理学療法セミナー				
					物理療法学演習	神経系理学療法学Ⅱ					
					リハビリテーション工学	神経系理学療法学演習					
						内科系理学療法学					
						発達と理学療法学演習					
						徒手理学療法学演習					
						義肢装具学					
						理学療法総合演習Ⅰ					
地域理学療法学			地域・子どもボランティア活動論		特別支援教育と理学療法	地域理学療法学演習					
					地域理学療法学						
臨床実習			地域見学実習		理学療法見学実習		理学療法評価実習	理学療法臨床実習Ⅱ			
							理学療法臨床実習Ⅰ				

【教育内容】

「基礎教養科目」  
教育や社会的・文化的性差などに関する豊かな教養と高いコミュニケーション能力、またデータを読み解く力を身につけ、人をさまざまな視点から理解するために、＜コア科目＞、＜人間と社会・文化＞、＜人間と自然＞、＜人間と情報＞、＜人間と言語＞に区分した基礎教養科目を配置します。

「専門基礎科目」  
人の運動・行動を解剖学、生理学、運動学、心理学、発達学的観点から、性差も含め分析・考察ができる能力と国内外でのリハビリテーション専門職者として必要な医学的知識を修得するために、＜人体の構造と機能及び心身の発達＞、＜疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＞、＜保健医療福祉とリハビリテーションの理念＞に区分し、該当する科目を配置します。

「専門科目」  
・基礎教養科目や専門基礎科目の知識をさらに応用させながら専門性を高め、専攻ごとに＜基礎作業療法学＞、＜基礎理学療法学＞に区分し、該当する科目を配置します。  
・リハビリテーション専門職者としての管理能力を養い、科学的根拠に基づいた評価及び治療・指導・援助の知識・実践力を身につけるため、専攻ごとに＜管理学＞、＜評価学＞、＜治療学＞に区分し、該当する科目を配置します。

・地域社会に貢献できる専門職を育成するために、専攻ごとに＜地域＞区分とし、該当する科目を配置します。

・＜臨床実習＞区分においては、1年次の地域見学実習から4年次の「作業療法臨床実習Ⅱ・理学療法臨床実習Ⅱ」まで、各年次に段階的に臨床実習科目を配置します。学外における臨床実習施設では、原則として診療参加型実習を行うことで、確かな臨床実践能力を養います。また、臨床実習前後において、学内では、臨床実践における基本的な知識や技能を評価するため、OSCE(客観的臨床能力試験)とCBT(コンピュータを用いた客観試験)を行います。

(1)知識・技能  
あらゆる年代の人たちと信頼関係を築くために必要不可欠なコミュニケーション能力の基礎となる『国語』と『英語』、多くの情報から正確に問題点を抽出するための論理的思考を育む『数学』の基礎を身につけている。さらに生命活動の本質を追求する上での基礎となる『生物』や『物理』、『化学』等の科目にも関心がある。

(2)思考力・判断力・表現力  
物事の本質を捉え、筋道を立てて論理的に考え、根拠に基づいて判断し、課題を解決できる。さらに他者の意見を尊重しつつ自分の考えをわかりやすく伝えることができる。

(3)主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度  
保健・医療・福祉に興味や関心を持ち、人に関わる現象を探索するために自ら行動を起こすことができる。さらに多様な考えやチームの中での個人の役割を理解し、協働して課題解決に取り組むことができる。